

(別記)

## 豊明市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

【現状】市全体の耕地面積 509ha のうち約 7 割が水田であり、農業産出額の主力は水稲であるが、ぶどう・みかん・柿等の果樹やはくさい・キャベツ・たまねぎ等の野菜、花きも盛んである。また、農業生産法人を中心に、麦・大豆の生産拡大に取り組んでいる。

【課題】販売農家数・農家人口ともに減少しており、基幹的農業従事者のうち約 8 割が 65 歳以上という現状からも、後継者不足が懸念される。

### 2 作物ごとの取組方針

#### (1) 主食用米

年間を通じて安定した品質の米を生産・提供するため、下記事項を主に推進する。

- ・銘柄確認のため、種子を毎年更新することで品質の向上及び均質化を図る。
- ・農協が定めた規格で乾燥調製することにより品質の向上及び均質化を図る。
- ・トレーサビリティシステムの推進。
- ・品種の集約化により低コスト化を図る。

#### (2) 非主食用米

##### ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、麦大豆に次ぐ主な転作作物に位置づける。平成 30 年度には 20ha の生産を目指す。

##### イ 備蓄米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成 25 年度から取組を開始。現行の面積を維持していく。

##### ウ 米粉用米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成 26 年度から取組を開始。30 年度には 5ha の生産を目指す。

##### エ 加工用米

主食用米と同じ機械、施設で取り組める転作作物として、平成 25 年度から取組を開始。現行の面積を維持していく。

#### (3) 麦、大豆

麦に関して産地戦略枠を活用し、下記事項を重点的に推進する。30 年度は 21ha を目標とする。

- ・銘柄確認のため、種子を毎年更新することで品質の向上及び均質化を図る。
- ・トレーサビリティシステムの推進。
- ・赤カビ防除の徹底。
- ・担い手農家に生産を集約し、品質・収量ともに安定した作付を目指す。
- ・団地化を行った担い手に対して助成することにより生産の安定を図る。
- ・GAPの導入

大豆に関しては下記事項を重点的に推進し、30年度は21haを目標とする。

- ・銘柄確認のため、種子を毎年更新することで品質の向上及び均質化を図る。
- ・トレーサビリティシステムの推進。
- ・担い手農家に生産を集約し、品質・収量ともに安定した作付を目指す。
- ・団地化を行った担い手に対して助成することにより生産の安定を図る。
- ・GAPの導入

#### (4) 不作付地の解消

不作付水田に非主食用米や麦・大豆の作付を推進することにより、不作付地の解消を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成28年度の作付面積 (ha)	平成29年度の作付予定面積 (ha)	平成30年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	221	197	195
飼料用米	0.48	20	20
米粉用米	8	5	5
WCS用稲	-	-	-
加工用米	11	5	5
備蓄米	6	6	6
麦	12	20	21
大豆	15	20	21
飼料作物	2	2	2
そば	-	-	-
なたね	-	-	-
その他地域振興作物	53	53	53
・野菜	28	28	28
・果樹	13	13	13
・景観形成	9	9	9
・その他	3	3	3

### 4 平成29年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成28年度 (現状値)	平成29年度 (目標値)	平成30年度 (目標値)
1	麦	GAPの取組	ウ	実施面積	12	20	21

※「分類」欄については、実施要綱別紙15の2(6)のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか1つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

※平成30年度以降の目標値を設定している場合は、「平成29年度(目標値)」欄の右に欄を設け、目標年度及び目標値を記載してください。

※現状値及び目標値が単収、数量など面積以外の場合、( )内に数値を設定する根拠となった面積を記載してください。

### 5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり